

5月1日に元号が平成から令和に改元され祝賀ムード漂う5月19日、稲敷市在住の当会会員、坂本禎一さん宅でバラ見学会が行われました。今年で15年目になります。

坂本さんは「歳をとってなかなか手入れができない」と嘆かれるものの、庭には見事なバラが咲いていました。参加者は8名。お天気に恵まれ、楽しいひとときでした。



ピエール・ド・ロンサーヌ

このつるばらは、見飽きぬ美しさがある。白とピンクの豪華な花が群れ咲く。



武州

坂本さんの友人石橋さん作出。微妙な色合いが魅力。石橋さんは何度も椿展に来場。



デンティ・ベス

一重の房咲き。清楚な一重が魅力。



快拳

京成バラ園作出。バス見学会がいい思い出です。



ヘンリー・フォンダ

ばらほど美しい黄色の花はない。



ひさみ

黄色とピンクの複色。この色合いが椿に欲しい。



花切り風景



家に飾り、香りを楽しむのもばらの魅力



参加者記念写真

後列右から2人目がばらを育てている坂本禎一さん。今年もお陰様でばらを楽しむことができました。



ばらを見学後、各自の車で移動。

道の駅「発酵の里こうざき」

神崎町は、昔から酒・醤油の醸造業が盛んで、それら特産品を販売。

昨年ばら見学の後に行った稲敷市「チーズ工房」も店内に出品。

利根川も下流の神崎あたりまで来ると川幅が広く雄大。神崎橋で千葉県に渡り大堤防にそって走るとすぐに「発酵の里こうざき」に着きました。坂本家からたったの20分ほど。昔から稲敷の人たちにとって、神崎町や佐原市は買い物などで身近でした。坂本さんも高校は佐原に通われたとのこと。

神崎町は、古くは神崎の渡しで知られる交通の要所。利根川水運の物資の集散地でもあり、造り酒屋、醤油屋など醸造業が盛んであったそうで、それに由来しての道の駅です。

店内には、地酒「五人娘」をはじめ地元産品が並び、買い物を楽しんだ後、解散しました。